

## 中央環境審議会総合政策部会 地方ヒアリング（盛岡会場）概要

### 1 ヒアリングの日時及び場所

日 時：平成 14 年 3 月 20 日（水） 14：00～16：30

場 所：ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING 4階 メトロホール東

### 2 出席者（五十音順、敬称略）

#### （意見発表者）

上 野 幸 子 盛岡市立下橋中学校教諭  
大 堀 秀 俊 (社)東北経済連合会常務理事・事務局長  
小 原 豊 明 二戸市長  
加 藤 直 子 主婦  
熊 谷 まゆみ 地球とともに歩む会代表  
瀬 川 強 グリーンベルト推進連絡協議会代表  
広 瀬 龍 一 西和賀文化遺産伝承協会事務局長  
町 田 正 三 北上製紙(株)代表取締役社長  
役 重 真喜子 東和町総務課いきいきまちづくり推進室長

#### （中央環境審議会総合政策部会）（ = 司会者）

浅 野 直 人 福岡大学法学部教授  
河 野 正 男 横浜国立大学大学院国際社会科学研究科教授  
瀬 田 重 敏 旭化成(株)特別顧問  
三 浦 慎 悟 森林総合研究所東北支所保護部長  
村 上 忠 行 日本労働組合総連合会副事務局長  
横 山 裕 道 毎日新聞社論説委員

#### （事務局 - 環境省）

総合環境政策局環境計画課 鷲坂課長  
総合環境政策局総務課 深見課長補佐

#### （傍聴者）

約 60 名

### 3 意見の概要

#### （1）上 野 幸 子（盛岡市立下橋中学校教諭）

中学校教諭としての経験から、環境教育の実践例、環境教育の成果として出てきた中学生の自主的な活動や生活改善の取組を紹介。

- ・ 本校では、持続可能な社会づくりに貢献できる人材育成、グローバルな視点で未来を考えていくことのできる「地球市民」の育成を目指し、総合的な学習

の時間を最大限いかして体験的な環境教育を進めている。体験学習としては、森林体験学習や地域のごみ調査、ISO 規格の取得企業やNGO・NPO訪問、海での養殖作業や森での植樹作業の手伝いなどを実施している。

- ・ 環境教育を進める中で、中学生は、自主的に文化祭で地球環境について考えられるテーマを設定するようになり、ごみとリサイクルなどをテーマにパネルディスカッションやシンポジウムを企画運営するようになったほか、生徒会組織の中にエコ委員会を設置して環境学習の重要性などの確認をするようになった。また、毎日の生活の中では、紙資源のリサイクルや節電・節水などを実践している。
- ・ 環境教育の結果、中学生は、意識を高めることの大切さ、行動することの大切さ、周囲の人たちへ広めていくことの必要性を認識するようになった。
- ・ 情報を幅広く公開して現状を共通した認識にしていくことの必要性、環境教育の重要性、生産者責任を明確にしていくことの必要性、数世代先の健康にまで配慮して考えていくことの必要性を感じている。

## (2) 加藤直子(主婦)

主婦、母親、女性として、子どもたちに迫る危機感から始めたエコクラブなどでの環境保全の取組事例やそこで出会った子どもたちの素晴らしい感性を紹介。

- ・ 地域の自然環境が破壊されていくことを残念に思い、一人で運動を始め、その結果、近くの小学生や父母と一緒に桜の木のテングス病を取る運動につながった。
- ・ 子どもたちが学校で光合成について学びながらも、実生活の中で自然と向き合うことの少ない現実を変えるため、行政と協力し、子どもエコクラブ「アースレンジャーかまいし」の活動を始めた。クラブでは、海のプランクトン調べ、潮だまりの生物見学などを行っているが、そこで出会う子どもたちの素晴らしい感性を大事にしてあげたいと思う。
- ・ 子どもたちの感性を守るため、各学校区に生き物の空間をつくったり、校庭に草をたくさん植えたり水たまりをつくるなどして、子どもたちが放課後に自然と触れ合えるようにしてほしい。

## (3) 熊谷まゆみ(地球とともに歩む会代表)

食と農の環境季刊情報誌「WaWaWa」の発行など「地球とともに歩む会」での取組や他の市民団体等と共同で実施した環境保全活動の実践例を紹介。

- ・ アレルギー体質の子どものために有機無農薬の野菜づくりを始めたことで、環境問題の大切さを認識するようになり、「地球とともに歩む会」を結成した。
- ・ 「地球とともに歩む会」では、小雑誌「環境・くらしのヒント集」を全国に8,000部発送したり、外部からゲストを迎え座談会形式の「エコにこトーク」を1年間開催したほか、食、農、環境季刊情報誌「WaWaWa」を発行している。
- ・ 青森、秋田、岩手の市民団体と共同で「北東北三県地球温暖化防止環境会議」を開催したほか、環境に関心のある市民団体だけではなく企業や行政も自由に参加して環境情報を共有することを目的とした「いわてトーク交流会」を開催し、

ネットワーク作りに力を入れている。

- ・ 子どもたちを紫外線から守るためUVカットの帽子を開発したので、この帽子を題材に学校や保育園などで環境問題に関心を持ってもらえるよう、県内3地域に各事務局を設置。ネットワークを広げていきたい。
- ・ 国は、二酸化炭素が増えると酸素不足で息ができなくなるということや、オゾン層が破壊されるとUVBが増加して皮膚ガンや白内障が増えるという現実など、地球環境問題について、分かりやすく伝えてほしい。

#### (4) 瀬川 強 (グリーンベルト推進連絡協議会代表)

緑の回廊の整備を進める「グリーンベルト推進連絡協議会」や、毎月、自然観察会などを開催している「カタクリの会」での取組事例のほか、地域の自然が破壊されていっている現状を紹介。

- ・ 「グリーンベルト推進連絡協議会」での活動の結果、青森、秋田、岩手の東北北3県の知事サミットで、国有林の途切れる場所に北東北の緑の回廊を整備するという話や、林野庁で全国の国有林に緑の回廊を整備するといった話につながった。環境省や林野庁など、府省間の壁を取り払って、緑の回廊の整備を進めてほしい。
- ・ 自分たちの住んでいる足下から行動するために、カタクリの会を結成し、毎月一回、自然観察会を開催している。また、他の地域にも自然観察を通じて自然を大切にする基盤ができてほしいとの願いから、「自然観察指導員ネットワーク岩手」を立ち上げて、「東北緑の回廊一斉自然観察会」の呼びかけなどを行っている。
- ・ 地域では、ブナの原生林が次々と伐採されたり湿地が牧草地にされたりしているほか、道路建設によって野生生物が交通被害に遭っている現状がある。環境省を北東北に設置し、地方の現状を日々モニタリングできるようにすることを提案したい。

#### (5) 広瀬 龍一 (西和賀文化遺産伝承協会事務局長)

中山間地域の自然を守るための対策の提案のほか、地域でのエコミュージアムの取組や「西和賀文化遺産伝承協会」での農業体験などの取組事例を紹介。

- ・ 中山間地域の自然を守るため、次のような対策が大切である。
  - 地元の人が地域の環境を再認識するために地元学を行う。
  - 農業体験などを実施し、近隣都市住民と交流する。
  - 工場誘致など外部依存型ではなく、地域の資源をいかした過疎対策を行う。
  - 都会に出た子どもたちを呼び戻す対策を市町村挙げて行う。
  - 林業の販売経路などを再検討する。
  - 青年会、婦人会、若妻会などの活動を活発化し、独自の地域振興を促す。
  - 環境調査や農業体験などの環境教育を進める。
  - 循環型の生き方をしている地域にモデル地区指定を行う。
  - バイオマスなど自然エネルギー事業導入を図る。

- ITなど新技術研究を進める。
- お年寄りの生活の知恵などの文化を保存していく。
- ・ これらの対策を総合的に進めるため、沢内村と湯田町ではフランス発祥のエコミュージアムの取組を進めている。また、「西和賀文化遺産伝承協会」では、農業体験を通し、会員に中山間地域の大切さを伝えている。
- ・ 行政には、地球レベルで考えた理念を基本方針としてしっかり打ち出してほしい。

#### (6) 大 堀 秀 俊 (社)東北経済連合会常務理事・事務局長)

東北経済連合会で策定し、東北地域を持続可能な環境共生社会の地域と位置付ける「ほくと七星構想」の紹介のほか、東北地域の産業界としての立場から、地域の特殊事情への配慮や企業の自主的取組への尊重を要望。

- ・ 東北経済連合会では平成12年5月に東北新世紀ビジョン「ほくと七星構想」を策定し、その中で東北地域を持続可能な環境共生社会の地域と位置付け、環境との共生、循環型社会システムの構築、エネルギーの安定供給などを目標に掲げている。
- ・ 最近の活動としては、企業の廃プラスチックのリサイクル取組事例集の作成、インターネットを活用した廃棄物情報交換システムの構築など東北における廃プラスチック等のリサイクルの在り方についての提言、環境問題への関心を高めるための講演会の実施などが挙げられる。
- ・ 地域レベルの総合計画の策定に当たっては、自動車での移動の必要性や寒冷地での暖房の必要性など、地方における特殊事情を踏まえた配慮が必要である。
- ・ 国は、各県の数値目標や経済的手法の設定がエスカレートしないようにしてほしい。また、産業界が中央と地方の二重負担を強いられることのないように指導してほしい。
- ・ 京都議定書の締結に必要な国内制度への取組においては、産業界は自主的取組を積極的に行っており、規制や経済的手法の導入には慎重な検討が必要である。

#### (7) 小 原 豊 明 (二戸市長)

行政の立場から、岩手・青森県境産廃不法投棄事件への取組、クリーンエネルギーの活用、まちの再発見運動である「宝を生かしたまちづくり」を紹介。

- ・ 岩手県二戸市と青森県田子町の県境に産業廃棄物の不法投棄が行われ、県の調査の結果、巨大なRDF（ごみ固形燃料）や廃油などが投棄されていることが明らかになった。県では、対策として廃棄物の撤去や封じ込めを検討しているが、いずれにしても巨額の資金が必要となるため、国の積極的な関与と資金面でのバックアップをお願いしたい。また、県では、不法投棄事件をきっかけとして、循環型社会の実現を目指した条例制定に向けた検討を行っている。
- ・ 二戸市では、小学校での太陽エネルギー利用、地熱エネルギーを利用した融雪装置の設置、バイオマスエネルギーの検討など、クリーンエネルギーの活用を行っている。

- ・ 地域の元気、自信を取り戻すため、「宝を生かしたまちづくり」という我がまちの再発見運動に取り組んでいる。その結果、山の上に蛍がいたり、川にはカワシンジュガイという氷河期の生き残りが住んでいる豊かなまちであることが再発見できた。市民の日常的な宝への関心は、自然環境モニタリング的效果をも、もたらしている。

#### (8) 町 田 正 三 (北上製紙(株)代表取締役社長)

製紙業としてのリサイクル取組事例の紹介のほか、環境保全的な考え方を経済活動に直結させる「経済循環型社会」の実現を提言。

- ・ 北上製紙株式会社は、板紙、新聞用紙を主力製品とした製紙業であるが、その原料を通じ古紙再生業者としての役割も果たすべく、消臭剤や古紙結束用紙紐などの古紙再生商品の開発と拡販や従来廃棄処分されていたJRの乗車券やビール瓶のラベルなど未利用古紙の活用のほか、紙紐による新聞古紙の回収やオフィス古紙回収システムの整備など効率的古紙回収システムへの取組を行っている。
- ・ リサイクルの取組はボランティア的な感覚ではなく、経済活動として成り立たせることを目指して取り組んでいる。そのような成果を上げることで、初めて他の業界でも取組が行われ、環境保全的な考え方を経済活動に直結させる「経済循環型社会」を実現することができると考える。
- ・ 取組を進める中で、企業や消費者は利益や便利さを享受しているのだから、連帯で責任を持ってその商品のリサイクルを進めていくことが必要であるとの認識と共に、リサイクルは循環して完結する以上全体の中で自分の役割をよく理解し、全体的に最も効率の上がるシステムを作ることが必要であるとの認識を強くするようになった。

#### (9) 役 重 真喜子 (東和町総務課いきいきまちづくり推進室長)

町民、国民の声を反映させた環境政策が必要との視点から、東和町での、環境マネジメントシステムの構築、成果指標・管理指標を用いた進行状況のチェックについての取組事例や農村の現状などを紹介。

- ・ 現在の国の政策形成システムはいびつであるが、環境政策ではとくに国民の声を反映させていくことが必要である。
- ・ 東和町では、ISO14001を用いて環境マネジメントシステムを構築したが、ISOのシステムで一番重要なのは、目標達成に向けた進行状況のチェックである。町民の目から見た政策の達成状況を数値で表す「成果指標」と個別事業の進行管理のための「管理指標」という仕組みを用いて確実な目標達成を目指している。
- ・ 達成状況を町民に公開するため、環境レポートを各戸に配布し意見募集を行っているが、町民の反応は少ない。パブリックコメントをしているというだけでなく、住民にとって分かりやすい示し方でなければ説明責任にはならないと痛感している。
- ・ 農村では、共働きで食卓がスーパーのおかずで賄われていたり、ごみが分別しないで野焼きされていたりするという現実に目を向け、地道に環境政策を進めていく必要があると考える。

#### 4 意見発表者に対する審議会委員からの質疑

(村上委員から瀬川さんに対して)

- ・ 府省の壁を破るためには地方分権しかないと思っているが、どのような分権をしたら広域的なグリーンベルトを守ることができるか。

(瀬川さん)

- ・ 地方分権よりも、府省を分散させて環境省を北東北に移転すれば、新たな発想が生まれると信じている。

(河野委員から加藤さんに対して)

- ・ 主婦としてできることとできないことをどのような基準で判断しているのか。
- ・ これまで、やりたいことが何かの障害でできなかったというような経験はあるか。

(加藤さん)

- ・ 一人での活動ということで却下されたり、行政にたらい回しにされたこともあったが、パブリックコメントで意見を提出するなどしているうちに活動の幅が広がってきた。

(瀬田委員から上野さんに対して)

- ・ 最近、ある会合で、義務教育の教科書から生態系という言葉が消えてしまった、環境に関わる重要な言葉が消えてしまって、きちんと理解できる人が育てられるものか、という話が出た。環境教育は、分かりやすく伝える一方で、それを受けてきちんと理解できる人間を育てていくことも重要と思うが、今の教育制度に注文はないか。

(上野さん)

- ・ 生態系、生物多様性や自然界のシステムについて学ぶことができる単元がもっとあってもいいと思うが、たとえ教科書に載ってなくても、総合的な学習の時間を使った体験学習などで十分補えると思う。

(横山委員から熊谷さんに対して)

- ・ 環境基本法は非常に分かりにくいですが、環境情報誌を発行している中で、分かりやすくするためにどのような工夫をしているか。

(熊谷さん)

- ・ 環境情報誌「WaWaWa」では、難しい表現は作者に書き直してもらったり、環境用語辞典を用いて説明を入れるようにしている。難しい文章は平仮名を多くした方が分かりやすくなると思う。

(三浦委員から上野さんと広瀬さんに対して)

- ・ 総合的な学習の時間も始まることから、エコミュージアムや環境教育のネットワークをつくっていく必要があると思うが、行政に対しどのような要望があるか。

(上野さん)

- ・ 行政には、教職員とNGOなどが情報交換できる機会をコーディネートしてほしい。また、教師に対する教育も工夫する必要がある。

(広瀬さん)

- ・ これまでの活動の経験から、行政が住民に受け入れられるためには、理念をしっかりすること、認定や表彰で褒めること、モデル地区の指定をすることが有効だと思う。また、行政には、ホームページにリンクをはるなどして地域の活動に絡むこと、縦割り行政を改善することを要望したい。

(三浦委員から瀬川さんに対して)

- ・ 緑の回廊の整備は日本の自然の骨格づくりにつながるが、今後はそれらの骨格をつないでいき森林の多様性を保全していく必要があるのではないか。

(瀬川さん)

- ・ もっと多くの人に緑の回廊を知ってもらうことによって、次の世代の人たちがもっとよい緑の回廊をつくっていってくれると思う。

(横山委員から大堀さんに対して)

- ・ 東北経済連合会の意見は経団連の主張と似ているが、東北の加盟企業から具体的に上がってきている声なのか。

(大堀さん)

- ・ 企業がリサイクルの取組をしている中で安易に課税をしたりすると、埋めたり燃やしたりした方が安上がりということでリサイクルの環を断ち切ってしまう危険性がある。また、会員企業からは、経済的な手法を用いて課税しやすい特定の業者に負担をかけるより、不法投棄などを厳しく規制すべきとの意見をよく聞く。

(村上委員から町田さんに対して)

- ・ 都会では古紙の値段が大きく変動するが、古紙の値段を安定させたり、安くなっても古紙回収が経済的に成り立つ知恵はないだろうか。

(町田さん)

- ・ 古紙の値段を安定させるためには需給バランスをとる必要があるが、そのためには古紙配合率を高くするなど、古紙の需要を拡大させなければならない。また、合理的なシステムをつくることにより、古紙回収費用を下げることも大事である。

(瀬田委員から小原さんに対して)

- ・ クリーンエネルギーの中で比較的可能性があるのは地熱エネルギーであると感じているが、どのように考えるか。

(小原さん)

- ・ 二戸市で利用している融雪装置は、地中の熱を利用したガイア融雪システムである。初期投資は高いが、国の支援があれば有効な手法になると考える。

(河野委員から役重さんに対して)

- ・ 事業所のような点管理ではなく、行政区域として面管理で環境マネジメントを実施する上での苦勞はどのようなことか。
- ・ 東和町で配布している環境レポートの内容はどのようなものか。

(役重さん)

- ・ 面管理で一番大変なのは、目標達成のためのマニュアルとスケジュール作りであるが、できるだけ成果や是正措置を重視したマニュアル作りを行っている。
- ・ 環境レポートは、環境省の環境報告書ガイドラインを参考にして作成したもので、企業の環境報告書に当たるものである。

## 5 会場からの意見

**勝 政 康 臣 さん**

- ・ 日本人にとって自然や環境問題は、学問的に基盤学とも言えるものである。環境省を国家基盤省とし、その下に文部科学庁や農林水産庁を設置するような考え方を確立していけば、行政がやりやすくなると思う。

## 6 現地視察概要

日 時 3月20日(水) 午前

視察先 いわてクリーンセンター

焼却施設・最終処分場・水処理施設を備えた総合的な産業廃棄物処理施設。

岩手県環境保健研究センター

環境公害・保健衛生分野や自然環境分野の試験研究の拠点。